

■平成20年度在京飯田高校同窓会講演要旨

変わりゆく故郷

下伊那の今日そして明日

自然と共生する社会づくりを目指して

平澤和人 (高23回)

三十代の後半になって、たまたま環境問題を担当することになりました。世界が一堂に会して、一九九二年、ブラジルで環境サミットが開催され、地球規模の環境問題の克服が問われた時代でした。

当時、長野県には百二十市町村がありました。またどこも環境プランを立てていない時代でした。率先してヨーロッパの視察に行かせていただき、いろいろ勉強して環境プランを立てました。

それが切っ掛けで、「自然と共生する社会」をつくっていかねばならないという思いから、将来に向けてのライフワークとして、環境問題に取り組んできました。今日、ここでは、「自然と共生する社会づくりを目指す」という視点から、お話をさせていただきます。



●ひらさわ・かずと
下久堅出身。静岡大学工学部卒業後、飯田市役所に勤務。飯田市議会事務局長を務め、平成20年末、退職。環境カウンセラー（環境省登録）。NPO法人飯田自然エネルギーネット山法師事務局長。

発展系の一方、課題（衰退系）も

今、故郷が直面している課題について、お話ししたいと思います。

まず、何をもって「発展」というか、非常に難しいのですが、例えば利便性が向上したとか、物的豊かさを実現してきたとかを一つの発展系とみますと、たしかに飯田市の産業総生産高は確実に上がってきております。

一方、一人当たりの税込額は平成十、十一年ころをピークに少し下がっている感がありますが、水洗の普及率は昭和六十三年の三〇%に比べると、九〇%に。あるいは市道の舗装延長距離は一・五倍くらいになっている。また、自家用車の保有台数も一家に二台という状況になり、電力の使用率も増えております。大学の進学率も、昭和



「風の学舎」からの眺望

六十三年ごろの一九％に対して、今では五三、四％にまで伸びています。

逆に、課題（衰退系）も見えてきております。一つは少子高齢化の進捗。小学生の数が減ってきております。また、

第一次産

業として

の農家も

減少して

きており

ます。今、

販売農家

としては

二千八百

戸くらい

でしょう

か。その

一方で、

ゴミ問題、

野焼きの

苦情、不

法投棄な

どの、公

害苦情の件数が大幅に増えてきております。

さらに非常に残念なことですが、不登校の小・中学生の数が増えてきています。やはり子どもが目から見て、暮らしにくい社会が来ているのかなと。それに対して、大人はどう考えていくべきかを思わされています。

たしかに、いろいろな発展して便利にはなりました。しかし、その陰でいろいろな問題が起きてきている。近代合理主義の追求一辺倒はどうだったのかなと、役所で青臭いことを言っているわけですが、振り返るべき時が来ていると思わざるを得ません。

最近の若い人たちの行動を見ても、利便性や豊かさの追求が必ずしも幸福に結びついていないのかなと思ったりしています。そういう西欧型の近代化一辺倒というものの行き詰まりを感じております。

ヨーロッパに視察に行き、いろいろなもの見、また感じてきましたが、もっと、西洋の文化や思想と日本（東洋）のそれらがアウフヘーベン（止揚）されて、新たな文化・文明をつくり出す時代に来ているのではないかと感じております。

飯田、下伊那の特色とは……

で、「飯田、下伊那の明日」ということですが、飯田、



講演風景

下伊那の特色というところ、この地域は日本のほぼ中央にあつて、温帯と寒帯が交じり合っていることや、深い谷と河岸段丘で変化に富んだ地形であることから、非常に多様

性に富んだ地域であること。

また、教育、文化の面でも、古代からこの飯田、下伊那地域は文化の交流や交通要衝の地であり、今でも谷間の集落ごとに独自の文化が息づき、様々な伝統文化やお祭りが継承されてきています。

もう一つは、全国でもっとも医療費の低い地域なんですね。食生活も多様性に富んでいることや、山坂も多いことから健康で長生きだと言われています。

また、政治活動、公民館活動や青年活動などの市民活動が活発で、県庁からもっとも遠い地域にある分、自主自立の精神が旺盛であると言われています。

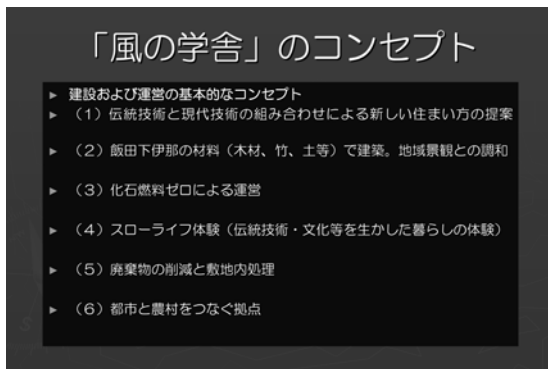
目指すは「日本一心豊かな地方都市」

では今後、この飯田、下伊那をどのように考えていくのか。いろいろあるとは思いますが、「日本一心豊かな地方都市」ということを目指していきたいと思っています。そのためには、歴史や文化を活かし、地元で暮らしている人たちのエネルギーを引き出すような行政の仕組みや、自然の恵みを最大限に活かす社会経済活動がこれから必要とされるのではないかと思います。

以前、先輩である本多勝一さんに、飯田高校の講演会に講師として来ていただいたことがあります。その時、こうおっしゃったことを覚えております。

世界各地を旅してきて、真に自立できるのは下伊那だけだと。食糧、資源、水、エネルギーなどをみな地元で調達する、クローズド（閉じられた）な社会を考えた時に、それが成り立つのはこの下伊那だけだと自分は感じたとのことでした。それだけ、自然が豊かで多様性に富んでおり、うまくやれば、循環型社会のモデル地域になるのではと思うわけです。

このような背景から、市町村合併が問われていた平成十五年の市の施政方針で、これからの目指す社会として、「質素だけれど実のある社会、いわゆる「質実社会」提



「風の学舎」のコンセプト

示しました。その時、老子の「多くは惑う、少なくは得る」という言葉も引用しましたが、今一度、皆に暮らしぶりを考えてもらいたいと思います。

森の恵みを活かすような社会の創造

では、どうするのかということ、二つの方向性です。

一つは都市と農村の交流。無機質な都会に対して、もつと田舎の自然の恵みを利用して、それをお互いの生活や経済に活かしていけないかということ。最先端のネット

社会に対して、一

方のネオルーラリズムの進展。都会で暮らしたり、田舎で暮らしたり……、マルチハビテーションもそうですね。今度、リニアが実現すれば益々、それが可能になります。

また、都市化一方に、自然志向、

田舎志向の流れがあります。飯田市にもグリーンツーリズムで多くの方々が来られます。こういう田舎と都市を結んで、お互いの利益になることができなかと考えております。

もう一つはまちづくりとして、近くの山の木で住宅をつくるということがとても大切です。地域雇用の確保にもなります。幸い、飯田、下伊那地域の森林率は八六%です。これを活かして、潤いのある街並をつくり、それを観光振興や「日本のふるさと」づくりに繋げることもできます。

この森の恵みを活かすような社会を創造していくこと。それが最終的には「持続可能な社会」に繋がっていくのではないかと思います。

スローライフ体験館「風の学舎」

そこで、僕らが取り組んでいるNPO活動の話になるのですが、ここで少しご紹介させていただきます。

平成十六年七月、NPO法人「いいた自然エネルギーネット山法師」を設立しました。そして、その拠点として、眺めの良い下久堅の高台にスローライフ体験館「風の学舎」を会員の手づくりで建て、ここを都市と農村を繋ぐ活動の拠点としていこうとしております。



立命館アジア太平洋大学の学生たち

ここでは化石燃料はゼロ。薪ストーブ、かまど、囲炉裏、ウツドボイラーに加えて、無指向性の風力発電、太陽光発電、太陽熱温水器や雨水利用設備などを備えております。ぜひ一度、お立ち寄りください。

今年（二〇〇八年）の五月に完成祝賀会を行い、「地球温暖化連続セミナー」も開催しました。また、地元の子どもたちとの交流会や、都会からの利用者も受け入れております。九月には炭焼き窯の建設を始めました。

私は平成九年から、環境省の環境カウンセラーとして活動していますが、「美しい郷土を未来に」を謳い文句に、これからも地方の自然、歴史や文化を継承し、誇りあるまちづくり、そして背中で次世代にDNAを伝えていく活動を押し進めていこうと思っております。

平成 21 年度 在京飯田高校同窓会のご案内

今年から、11月第2土曜日の午後になりました

■日時：2009（平成 21）年 11 月 14 日（土）午後 1:00～4:30



■場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

〒 102-0073 東京都千代田区九段北4丁目2番25号
電話 03-3261-9921（代）

■内容：第1部 総会
第2部 講演会

「先端医療の開発と地域医療への貢献の両立を目指して」
講師：池田修一氏（信州大学医学部内科学第三講座教授 高24回）

第3部 懇親会

■会費：男性 8,000 円 女性 6,000 円

（いずれも、うち 1,000 円は同窓会維持会費）

アルカディア市ヶ谷 URL <http://www.arcadia-jp.org/>